

松原市教育委員会 11月定例会 議事録

1. 日 時 令和3年11月24日(水) 午後1時45分

2. 場 所 松原市役所 301会議室

3. 付議事件等 なし(その他案件のみ)

出席委員 美濃教育長 栗崎教育委員 田中教育委員 有馬教育委員 和田教育委員
佐野教育委員

事務局 宮本教育総務部長 浦井理事兼教育政策課長事務取扱 横田学校教育部長
田中教育総務部次長兼文化財課長 森岡副理事兼学校給食課長
手束副理事兼いきがい学習課長
田中教育総務課長 幸教職員課長 森教育推進課長 前崎地域教育課長
矢野教育研修センター長 大宅市民協働部参事

では、定刻前ではありますけれども、関係者そろっているようなので、始めたいと思います。

ただいまの出席委員は5名でございます。私を含めまして定足数に達しておりますので、会議は成立しております。

これより11月の定例教育委員会を開催いたします。なお、山森学校教育課部次長、市民協働部の坂野部長、北野次長が欠席との届出がございましたので、御報告をいたします。

10月定例会の会議録につきましては、まだ出来上がっておりませんので、次回定例教育委員会で、お諮りをしたいと思います。次に、本日の会議録の署名委員を指名いたします。

委員会会議規則第17条第2項の規定により、佐野委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

それでは、初めに教育長報告を行います。お手元の資料に基づき報告をさせていただきます。

まず、10月22日ですが、第59回松原市新型コロナウイルス感染症対策本部会議が開かれました。また、同日、セーフコミュニティ推進協議会が開かれ、3つの対策委員会の活動報告と今後の事業計画についての説明がございました。

11月1日には、令和3年度近畿市町村教育委員会研修大会が、尼崎市の総合文化センターで実施されました。栗崎委員、有馬委員と私で参加をしてみいました。

研修では、東北大学の川島隆太先生から、脳科学の知見を生かした教育ということで講演がございました。

その中では、スマートフォンやICTの活用の、どちらかというとなりの部分についての話がありまして、特に長時間のスマホの使い過ぎというのは、脳の発達に非常に影響を及ぼして、むしろ学力の低下につながってしまうというようなデータの紹介などもございました。

本日午前に開催した総合教育会議では、その活用、これからどういうふうに使っていくかという話もやりましたけれども、その使い過ぎの部分というところもしっかり考えて、どういう部分で活用していくのかというのを、これからしっかり検証していかないといけないかなということを感じさせられたところです。

それから、11月3日ですが、文化の日でございます。松原市表彰式並びに教育委員会表彰式、規模を縮小してまつばらテラスで実施いたしました。

教育委員会表彰の対象は18名でしたが、そのうち7名の方に御出席をいただきました。

また、表彰式の冒頭では、松原第三中学校の2年生の生徒による市民憲章の朗読も併せて行われました。非常に堂々とした朗読で、すばらしかったというふうに感じました。

また、11月5日には、大阪府都市教育長協議会秋季研修会が、大東市で実施されました。

また、11月12日、私、大阪大谷大学のほうに出向きまして、教育学部の2年生約130人に講義させていただきました。

ICT機器の活用とこれからの学校教育という題で、松原市の現状、また取組、それから今後の教師として求められる力などについての講義をしてまいりました。

横田学校教育
部長

非常に熱心に聴いてくださる学生さんがほとんどで、後でいただいた感想を読むと、非常に松原の取組が進んでいるということが分かりました、という感想もありましたし、GIGAスクールという言葉を知ってはいたけれども、意味とか狙いとか、実際の現場がどう変わりつつあるのかということについては全然知見がなかったので、非常にためになりました、というような感想を書いてくれる方も多かったように思います。

また、11月18日には、社会を明るくする運動の令和3年度松原地区第2回推進委員会が開かれまして、出席をまいりました。

引き続き、感染拡大に備えつつ、教育委員会として子どもたちの学力向上と健やかな成長を後押ししていきたいと考えておりますので、今後とも、教育委員の皆様方には御協力をよろしく願いいたします。以上、御報告とさせていただきます。

ただいまのことについて何かございますでしょうか。

よろしいですか。

それでは、ないようですので、議事に入る前に新型コロナウイルス感染症対策の実施による小中学校の現在の状況について、事務局から報告をお願いいたします。

新型コロナウイルス対応小中学校の現状を御報告いたします。

御承知のように10月より緊急事態宣言が解除されまして、今日は11月下旬ということで2か月近くたっております。

その間の感染者数ですが、小中学生の感染状況でいいますと、8月は市内小中学生63人の感染が確認されておりました。

9月34人、そして10月は1人、今月11月は、本日24日現在ではゼロです。

この感染状況、非常にありがたい状況でございますので、その間にございました修学旅行、中学校7校全校実施済みでございます。

小学校につきましては、15校中13校が実施済みでして、明日25日から松原西小学校、そして最後に明後日26日から布忍小学校の予定でございます。

現状、感染対策を講じながらですけれども、十分実施は可能かなと思っております。

さらには、日常の部活動、そして遠足、郊外学習なども通常どおり実施ができております。部活動の試合、あるいは遠足、校外学習も予定どおり実施がほぼできております。

さらに、ISSの現地審査、今月、松原中学校区4校、そして松原第六中学校区3校、合計7校が初の認証の内定をいただきました。

加えまして、松原第三中学校区の3校は再認証の内定をいただいております。

このISSの取組が、これまでの本市の学校での感染対策にもかなり功を奏しております、その辺りも審査員の皆様から評価をいただいております。

続きまして、1月には松原第二中学校区、そして松原第五中学校区の6校が現地審査の予定をしております、この6校が認証となりますと、全22の小中学校が認証になる予定でございます。

	<p>まだまだ、この間に寒くなってきておりますので、この寒冷な気候の中で、インフルエンザの流行については、昨年度全く閉鎖もなくほとんど感染者が出なかったんですけど、新型コロナウイルスの感染対策に加えまして、インフルエンザの感染対策もちよっと気にしていかなければならないという状況でございます。</p> <p>以上です。</p>
美濃教育長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ただいまの件について何か御意見、御質問はございませんでしょうか。</p> <p>ないようですので、これより本日の議事に入りたいと思います。</p> <p>本日は、その他案件が4件となっております。</p> <p>今回も説明の終わった者から退出させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、まず、その他案件の1の人事異動についての説明をお願いいたします。</p>
浦井理事	<p>その他案件、人事異動についてでございますが、11月8日に人事異動がございました。</p> <p>教育委員会では異動がございましたが、市長部局にて事務の補助執行しております、市民協働部に異動がございましたので、御説明申し上げます。</p> <p>市民協働部参事、いきがい学習担当に、大宅孝が就任いたしました。</p> <p>以上でございます。よろしくをお願いいたします。</p>
美濃教育長	<p>ただいまの件について御意見、御質問ございますでしょうか。</p>
浦井理事	<p>本日出席させていただいておりますので、御挨拶だけさせていただきたいと思っております。市民協働部参事の大宅でございます。よろしくお願ひします。</p>
大宅市民協働部参事	<p>市民協働部参事の大宅でございます。</p> <p>よろしくお願ひします。</p>
浦井理事	<p>以上でございます。ありがとうございます。</p>
美濃教育長	<p>続きまして、「天美図書館移転開館の準備のための休館について」の説明をお願いいたします。</p>
手束副理事	<p>天美図書館、現天美図書館は、1988年、昭和63年から開館してきましたが、新天美図書館が来年2月に開館予定でありますので、その準備期間として、12月28日をもって、一旦休止させていただくことになりましたので、御報告させていただきます。</p> <p>以上です。</p>
美濃教育長	<p>ただいまの件について、何か御意見御質問はありませんでしょうか。</p>

それでは、ここで市民協働部の職員は退席をお願いします。

続きまして、「松原市奨学生選考委員会の委員の委嘱及び任命について」の説明をお願いいたします。

幸教職員課長

松原市奨学生選考委員会の委員の委嘱及び任命についてでございますが、松原市奨学金条例を資料としてつけておりますけれども、任期が2年となっておりますので、その2年が来ましたので、選考したものでございます。

そして、第9条に松原市に選考委員会を置くということで、この選考委員会は松原市に置かれているものでありますので、松原市審議会等委員選考審査委員会というところにかかけまして、今回、市長から任命されたものでございますので、報告させていただきます。

委員名簿にありますように、中学校長会会長、田中繁、小学校長会会長、藤田敦子、教育委員会事務局学校教育部長、横田雅昭、それから、次長の山森篤、それから、教育総務課長の田中照成、それから財政課長の藤井敏郎というところで、今後、また1月に募集をしますので、奨学生の希望がありましたら、ここで選考するというものでございます。

以上でございます。

美濃教育長

ただいまの件について何か御意見、御質問はございませんでしょうか。

よろしいですね。

続きまして、最後となりますが、「インターナショナルセーフスクール(現地審査松原中学校区、松原第三中学校区、松原第六中学校区)の報告について」の説明をお願いいたします。

森教育推進課長

横田部長のほうからもお話がありましたので、11月8日からの1週間におきまして、松原第六中学校区、松原第三中学校区、松原中学校区の現地審査が行われました。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点によりオンラインによる現地審査ということで、個別に日本セーフコミュニティ推進機構の白石先生とも準備をさせてもらいながら、現地審査という形を取らせていただきました。

オンラインで外国からの国際認証の審査員の先生に入らせていただきまして、特に大変お世話になっているニュージーランドのグレン・バーバー先生にも関わっていただいております。

この国際認証を受けるに当たって、限られた時間、それからオンラインという形で、機械のトラブルでちょっと通信が途絶えてしまったりという場面があったんですけれども、それでも学校のほうに御協力をいただきながら、また参加した子どもたちが精いっぱい表現してくれたことで、高い評価を得ることができました。

書面を机上に置かせていただいておりますけれども、成果、それから今後に向けてということで、様々な御助言をいただいております。

特にコロナ禍ということで限られた活動が多いんですけども、その中でも子どもたちが主体となって様々な活動しているというところは非常に評価できるということと、もちろん、けがの防止というところの観点の一つでは

あるんですけれども、どの学校も心の安心安全について、非常に子どもたちが考えて取り組んでいるというところについては、高い評価を得ることができました。

また、自分たちでその課題解決に向けて、先生が提案したものではなくて、自分たちで課題を発見してそれをどのように解決していくのかというプロセスまで考えている、その中で成果が出なかったところについても、きちっと丁寧に分析をしているということも評価の一つということでも伺っています。

また、学校によってはPTAの会長の方にも御参加いただきまして、保護者の視点から見たI S Sについてどうかということや外国の審査員の先生から御質問がありまして、やはり変わってきた。学校、それから、子どもたちがこのI S Sを通じて非常に成長しているということでお話を力強くされている場面がありまして、私も一緒に参加させてもらったんですが、非常に感動いたしました。

また、第三中学校区については、再認証ということもあって、前回よりも力強く進んでいるなという実感を受けたことであったりとか、努力の結果がどうしても、人数が減ったとか、けがの人数が減ったとか、いじめの認知がどうだということが多いんですけれども、それ以上にプロセスを大事にしているというところを感じました、ということで評価をいただいているところです。

あと、今後に向けては、取組は大変すばらしいものがあるんだけれども、地域の方々と課題も共有しながら、様々巻き込んで、いい意味で一緒にやっていけるような、そんな体制づくりを今後も大事にしていってってください、ということで御助言もいただきましたので、認証がゴールではありませんので、今後もインターナショナルセーフスクールの取組を通じて、安心安全な学校づくりを進めてまいりたいなというふうに思っております。

また、今後の予定ですけれども、松原第二中学校区と松原第五中学校区が1月17日からの週で行う予定になっておりまして、これを持ちまして、全ての小中学校が国際認証を得るというような流れになりまして、28日、これも合同の認証式典を予定しておるんですけれども、オンラインと現地とのハイブリッドな形で、温かい認証式をしたいなということで計画しているところです。

教育委員の皆様も大変お忙しいところではあるかと思いますが、御都合がつくようでしたら、1月28日金曜日の夕方を予定しております。放課後の時間帯に文化会館で認証式を実施したいなというふうに思っております。

全ての校区は来れませんので、オンラインで入るというような学校も多くありますけれども、松原らしいアットホームな認証式を行いたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上、報告です。

美濃教育長

ただいまの件について何か御意見、御質問等ございませんでしょうか。

和田委員

今、報告を聞かせていただいたんですが、その評価の中に、地域の方と課題解決をさらに進めてくださいという意見があったと言われたんですけれども、実際、その課題としてどんなことが挙げられていたのか教えていただけますか。

森教育推進課
長

例えばになるんですけれども、子どもたちはやはり交通量の多いところを登校しているという現状がございます。

学校のほうでも子どもたちとともにどういった通学路の危険性があるのかということであったり、交通事故に遭わないようにするにはどうしたらよいかということを考えてはいるんですけれども、ただ地域の方から見て、子どもたちの登校の場面をどんなふうに見ておられるのかというような課題を、同じ課題を違う視点から御意見を伺いながら解決していく、ということも大事なのではないかと、ということを御助言いただきまして、早速具体的な動きを取りたいというような願望がございました。

以上です。

美濃教育長

ほかにございませんでしょうか。

よろしいですか。

それでは、ほかにも御意見、御質問ないようですので、一応、以上で、案件としては終わりにいたします。

ほかにも何かございせんか。

田中委員

先日、市町村教育委員会に私と有馬委員、2人で参加させていただきましたので、ご報告です。

私と有馬委員は、その日、不登校の児童、生徒に対してどのように対応していますかというのが、そのグループ討議の議題でございまして、その中で私のグループは千葉県の我孫子市と神奈川県鎌倉市、そして岡山県の倉敷市、そして愛媛県の西条市、この4名と私の5名で討論したんですけれども、基本的に支援というのは学校内での支援が1つで、学校外での支援が1つ。

そして、それとはまた、支援とは違うんですけれども、不登校に陥った原因をアプローチするというのが3つ、大きな3つの柱があるんじゃないかなというふうな話が出ていまして、学校外での支援というのは、どの市も、松原市もそうなんですけれども、行っている。

いろんな形でそういった施設を持ったり、そういった組織を作って、行けない子どもたちをアプローチする、サポートするというような活動を行っているということなんですけれども、一方、西条市では、学校内での支援ということで学校内に1人もしくは2人の専属の先生を置いて、その方がほかの仕事じゃなくって、こういった不登校に関することだけを専任に行っているというような組織を作っているというような紹介もありました。

これは当然、県のほうからそういう費用を完全にバックアップしてもらっているというようなことが大前提なんですけれども、この取組というのはすばらしいような気がしました。

そして、不登校に陥った原因に、その子どもたちと向き合って探り出していくというようなアプローチも、こういった学校内での支援という専門の先生が中心になって行っているというようなことで、確かに不登校になったことは不幸なことではあるんですけども、それをアプローチするというのは当然。

一方、そういったことに今後ならないように、その子どもたちが立ち直っていけるようにどのようにしてアプローチしていくか、というようなことを

有馬委員

事前に察知していくというようなことが非常に大事だというふうなことが議論に上がったんで、これはそうだなと自分自身もそう感じましたんで、ちょっと御紹介したいなと思いました。

私も一緒に不登校の支援についてのグループ協議に入らせてもらったんですけども、私のところは、宮崎県の都城市と、神奈川県鎌倉市と、広島県海田町と、千葉県我孫子市と私を含む5名だったんですけども、話の中であったのが、松原市同様に、コロナ禍、今年度に入って不登校児がやっぱりすごく増えているという話がすごく印象的で、どう支援していくかというところ、皆さん同じようなところで、頭を悩まされているところがありました。

その中でも印象に残ったのが、鎌倉市は支援教室が、松原市でいうチャレンジルームみたいなものがありますけれど、そこにも参加できない子たちをさらに支援していこうという形で、ウルトラプロジェクトみたいな形で、そういう支援を始めていって、鎌倉市の地域性を生かして外にアピールしていくという点で、体験活動を元に、何か自分が興味関心を持った探究型のプログラムを行っているみたいで、それを行うことによって子どもたちがいろんなそのプログラムに関わってくる大人の人たちとかいろんな人と話をすることで、学校に足が向き始めたという事例も聞いたりしました。

あとは、都城市はコミュニティスクールが始まって9年目ということで、いろんな外部の人に入ってきてもらって仕事を紹介してもらったりとかすることで、子どもたちがやっぱり将来のこと、仕事のことを考えられるということで、動画を見させてもらったんですけども、その感想で子どもの目がすごくきらきらしていたのが印象で、やっぱり学校って閉鎖的なものじゃなくて、どんどんこれからは開かれていっているいろんな地域の人、いろんな大人の人と話していった方がいいのかなというふうに印象がありました。

グループ協議が終わった後で、その全体的なまとめのときにすごく印象的だったお話があつて、そもそも不登校を出さないというお話があったのがすごく、そう言えばそうだなという、本当、目からうろこのお話をされていたグループもあったのが印象的でした。

さっき松原市は、先ほども言っていたI S Sの取組で、心の安心安全という面ですごく取組を頑張っているんで、あと、松原第二中学校区と松原第五中学校区、I S Sの認証取得を目指しているということなので、認められたら、またより一層松原市全体としての雰囲気としても、心の安心安全の不登校を未然に防いでいくという点に力が入っていけばいいのになと思いました。

以上です。すごくいいグループ協議ができてよかったです。ありがとうございます。

美濃教育長

ありがとうございます。

どちらの話も非常に興味深いというか、我々も参考にしていけないといけないなというふうにすごく感じました。

事務局のほうも事例が出た自治体、何かアプローチしてどんなことやっているのかというの、少し探ってくれるかなと思います。

特にコミュニティスクールなんか、これから本格的に4月から始めていくに当たって、先進事例のいいところというのは取り込んでいくべきだろうと

思うし、そのとおりにできるかどうかは別にして、松原だからこそこういうやり方ができるんじゃないかというのものもあるかもしれないから、そういう辺りは研究していかないといけないですよ。

ありがとうございました。他に何かございますか。

よろしいですか。

それでは、これで、以上をもちまして、11月の定例教育委員会を終了したいと思います。

本日は、午前中の総合教育会議と併せまして、どうもありがとうございました。

(閉会宣言午後2時13分)

署 名 教育長 美濃 亮

委 員 佐野 恭彦